

委員会の動き

(2025年3月～2025年5月)

運営会議

委員長 藤森 智



第4回の運営会議は3月13日に、オンライン参加を含め15名の委員が参加して開催された。まず報告事項として次の報告がなされた。講習会開催予定、アーカイブHP公開、30周年記念事業終了、協会出版物発刊予定、E-Isolation公開実験(2/26)、積層ゴムの経年変化増大への対応、2025年度総会開催(6/10)、国交省住宅市場整備促進事業申請。次に審議事項として2025年事業計画案と予算案について、以下の項目の審議が行われた。組織図案(技術委員会・普及委員会・特別委員会)、2025年度事業計画(調査研究・普及啓発・研究助成等)、2025年度予算案。審議の結果、一部の議案内容に修正を加えて次回理事会に諮ることが承認された。

第5回の運営会議は5月13日に、オンライン参加を含め13名の委員が参加して開催された。まず報告事項として以下の報告がなされた。会員数推移と会費入金状況、2025年度総会開催(6/10)、講習会と見学会開催予定、免震建物相談会の報告、国交省住宅市場整備促進事業認可、免震・制振構造データ集積結果、2025年度事業計画内容、その他(点検済シール・研究助成・会誌発刊)。次に審議事項として2024年事業報告案と収支決算案(事業報告・決算報告)、2025年度予算修正案、その他(次回運営委員会開催日)について審議が行われた。その結果、それぞれの議案内容で次回理事会に諮ることが承認された。

技術委員会

委員長 高山 峯夫



「天災は忘れた頃にやってくる」。誰でも一度は耳にした言葉だろう。これを言ったのは、物理学者で随筆家の寺田寅彦だといわれている。しかし、彼の随筆を読んでもこの言葉は出てこない。このことについて朝日新聞(5月28日付け)に、1938年7月9日の東京朝日新聞のコラムに中谷宇吉郎が「天災は忘れた頃これに来る。之は寺田寅彦先生が、防災かがく科学を説く

時にいつも使はれた言葉である」と載ったこと紹介されていた。また同じ記事には、ドイツのルール大学ボーフムの研究所が毎年公表する「世界リスク報告書」で示される自然災害リスクを表す「世界リスク指標」のランキングが、日本の災害の量は世界193カ国の中で、中国、メキシコに次いで3番目に大きくなっているものの、災害への対処能力は高いため最終的なリスクの順位は24位になっていると書かれている。災害のリスクが高い日本において、免震構造の果たす役割は大きいと思う。今後も免震・制振技術の発展に努め、日本の地震被害の軽減につなげたい。

免震設計部会

委員長 藤森 智



設計小委員会では、免震建物の接合部・取付け躯体設計指針(第4版)の執筆を進め4月初旬に発刊した。また当委員会の一部委員が、免震部材部会の免震部材接合部標準化WGやアンカーボルト実験WGに参加し、連携した活動を行っている。入力地震動小委員会では、今年度の活動内容と次年度の活動計画の確認を行った。また各委員から入力地震動に関する各種報告がなされた。また設計支援ソフト小委員会では、パッシブ・アクティブ併用免震のExcelツールの開発と免震層の簡易風応答評価方法計算Excelツールの改良を進めている。

●設計小委員会

委員長 中川 理



接合部の設計および津波への対応を主なテーマとして活動している。接合部の設計に関しては、新たな知見などを反映させた「免震部材の接合部・取付け躯体の設計指針, 第4版」を4月に発行した。指針の講習会は秋に開催の予定である。改定に際し、設計支援ソフト委員会(會田委員長)と調整を行い「積層ゴムアイソレーター接合部に作用する応力算定プログラム」も修正された。ここ1～2年は接合部指針の改定が主な活動内容となっていたが、今後は「免震建物における対津波構造設計マニュアル」の改定も視野に入れた活動を行っていく。設計小委員会の委員数名は、免震部材部会(高山委員長)の「免震部材接合部標準化WG」および「アンカーボルト実験WG」に参加し、それらWGと連携し活動を行っている。

●入力地震動小委員会

委員長 久田 嘉章



2025年3月12日に第145回、5月14日に第146回の小委員会を遠隔で開催した。第145回では前年度の活動と次年度の活動内容の確認、話題提供として「統計的グリーン関数法の改良」と「複合災害と建物耐震化について」(久田委員長)、「大振幅地震動が想定される地域に建つ免震建物の振動特性」(森清委員)が報告された。第146回では今年度の活動計画と技術報告会の内容の確認を行い、話題提供として「免震構造を対象としたレジリエンス性能の検討事例」と「BCP・LCC等の多面的視点による免震構造の有効性とその評価」(荻野幹事)、および、「日立市庁舎安全対策計画」(久田委員長)が報告された。

●設計支援ソフト小委員会

委員長 會田 裕昌



パッシブ・アクティブ併用免震のExcelツール開発と免震建築物の耐風設計指針の付5免震層の簡易風応答評価方法の計算Excelを2023年仕様に改良している。

また、JSSI接合部指針支援ソフトWG応力算定プログラムの4版への改定作業を行った。

耐風設計部会

委員長 吉江 慶祐



活動テーマのひとつである時刻歴風応答解析のガイド作成に関し、静止状態から定常状態に到達するまでの時間、サンプル数とアンサンブル平均のばらつき、平均風力の弾塑性風応答への影響の検討結果をもとに、時刻歴風応答解析を行う上での留意点やガイドで示すべき内容について議論した。また、E-Isolationの利用を念頭に置いた対風設計に関わる免震部材の実大実験について情報交換を行った。

施工部会

委員長 淵本 正樹

施工部会では「JSSI免震構造施工標準2025」を今年2月に発行した。今回の改訂では免震部材取付け

ボルト孔径の設定や免震部材直上に鉄骨部材が配置される場合の留意点等の解説を追加した。部会メンバーには改訂版発行の情報展開および改訂内容に対する読者の評価を収集するようお願いしている。

免震部材部会

委員長 高山 峯夫



免震部材部会に設置した免震部材接合部標準化WGでは積層ゴムやダンパーを対象に取付部の標準図の作成をすすめている。アンカーボルト実験WGでは、今年3月に実施したアンカーボルトの引き抜き実験の結果を受けて、次の実験内容を検討している。

制振構造部会

委員長 辻 泰一

●制振評価小委員会

委員長 佐藤 大樹



12月20日に制振評価小委員会が開催され、本小委員会の下に設置されている制振設計WG、制振部材解析法WG、制振構造解析・設計例WG、制振実験・観測WGの主査から活動状況についての報告があった。その中で、制振普及WGからは、「パッシブ制振構造 設計・施工マニュアル」別冊2を用いた講習会の準備状況の説明および開催時期、プログラム案および講師案についての報告があった。

●制振部材品質基準小委員会

委員長 辻 泰一



制振構造設計の最新動向の把握を目的に、3/27には西本委員より「アンボンドブレース (UBB) の実大実験」の紹介が行われ、活発な質疑応答が交わされた。また、2025年度の新たな活動として、設計事例紹介を中心に最近の制振構造を解説する講習会企画を取り上げ、設計事例の収集・分析を開始した。(小委員会Web開催:3/27 (12名)・5/22 (10名))

防耐火部会

委員長 池田 憲一



「耐火構造用性能担保温度並びに共通加熱試験体適合確認済み免震材料一覧」への追加申請案件の審査を防耐火評定部会にて受け付けている。また、防耐火部会内に設置したオイルダンパー耐火性能WGは、消防庁の通知および解析ソフトの協会HPへの掲載で一区切りとなったため一旦活動を休止し、流体ダンパーの耐火性能等の新規の課題については当面防耐火部会にて対応することとした。

実大動的特性評価委員会

委員長 室田 伸夫



本年度、実大動的特性委員会は、昨年度に引き続き、12月にE-Isolationで実大動試験を計画している。昨年度は、ひずみ依存性、面圧依存性、限界変形について、NRB、LRB、HDRのφ1000積層ゴム各2体を用いて試験を実施した。今年度は、同じ試験体で各1体を用い、「振動数依存性試験」と「一定引張り変位下でのせん断試験」を行う予定で、現在、委員会内で詳細な試験条件を検討している。

普及委員会

委員長 前林 和彦



運営幹事会を開いて2025度の普及委員会の事業計画について議論した。初めての試みである意匠設計者向け免震講座、前年に続く一般向け免震セミナー、恒例の免震フォーラムなどを開催する方向で内容について検討を始めた。意匠設計者向け免震講座は7月、一般向け免震セミナーは8月、免震フォーラムは11月開催を目標として今後運営幹事会、各部会で詳細を詰めていく。

教育普及部会

委員長 谷沢 弘容



シリーズで行っている『わかりやすい免震構造の

設計』講習会のうち（演習編）を3/5に東京会場で、3/12に大阪会場でともに対面講習として実施した。また、今年度、会員向け見学会を年3回計画しているが、第一回目（東京日本橋）を5/21におこなった。

出版部会

委員長 浜辺 千佐子



出版部会の全体会議を2025年3月19日にWEBで行った。2025年4月末発行の会誌128号の進捗状況の確認と2025年7月末に発行予定の会誌129号の掲載案件の議論を行った。「免震/制振訪問記」はこれまで数年間、コロナや30周年記念事業の関係で実施していなかったが、このたび130号から再開することとした。また、引き続き皆様からも掲載案件を募集していますので、是非ご協力をお願いいたします。

社会環境部会

委員長 人見 泰義



ホームページに掲載している日本免震構造協会SDGsへの取り組みを実行に移せるように、免震部材の原単位の資料収集、および、免震建物と非免震建物のLCA試算などにより、地球環境に優位性を示す資料の作成を引き続き行っています。

ホームページ検討部会

委員長 磯部 共伸



3月に検討部会を開催致しました。昨年度は英語版協会ホームページの改訂やデジタルアーカイブ化などを行いました。よりいっそう活用いただくための対応を継続していきます。なお、6月より情報発信部会に名称変更し、より幅広い活動を行って参ります。

国際委員会

委員長 齊藤 大樹



令和7年度国交省受託事業「住宅建築技術国際展開支援事業」が採択され、フィリピンとインドネシアを対

象に、10月頃に両国の視察団を日本に招聘し、11月および12月頃に日本の視察団を派遣することになった。4月4日には、インド構造技術者協会（IAStructE）との共催で”Seismic Isolation of Structures”と題するWebinarを開催し、日本からは齊藤大樹国際委員長と村松晃次委員が講演を行った。免震構造のISO/TR21259（ISO23618に基づく設計事例）については、3月31日に国際WGが開催された。これまでに日本から3つ、中国から2つ、ルーマニアから1つの計6つの設計事例が収集されている。また、9月に米国カリフォルニア州バークレーで開催される19WCSI（第19回世界免制振会議）に協会のブース展示を行うことになった。

免震・制振構造技術の 海外展開検討部会

委員長 高山 峯夫



2025年度の国交省の国際展開事業として、フィリピンとインドネシアを対象に実施することとなった。両国のエンジニアを日本に招待して研修を実施するとともに、我が国から研究者や技術者を両国に派遣して、ワークショップなどを11月～12月に行う計画としている。

資格制度委員会

委員長 北嶋 圭二



資格制度委員会は運営幹事会及び6部会（2資格の試験、審査、更新の部会）で構成されている。資格制度委員会は、当協会が認定する「免震部建築施工管理技術者」及び「免震建物点検技術者」の資格に関わる講習・試験及び更新講習（毎年度計4回）の実施、及びその合否判定の事業を担当している。2000年に発足した当協会の資格制度の資格保有者数は2025年3月現在、施工管理技術者6,620名、点検技術者2,811名となっている。

2025年度の講習・試験は昨年同様にオンデマンド講習、インターネット経由で行う試験IBT（Internet Based Test）で実施する。施工講習・試験は既に申し込みが終了し、オンデマンド講習開始が6月末から、IBT試験が7月20日（日）に実施される。点検講習・試験は9月末から申し込み、オンデマンド講習が12月中旬から、IBT試験は1月25日（日）を予定している。

また、更新講習も昨年同様にeラーニングで実施する。施工更新講習は6月から申し込み、講習期間が10

月3日（金）～20日（月）、点検更新講習は7月下旬から申し込み、講習期間が11月7日（金）～25日（火）に予定している。各試験、講習の詳細は決定次第、協会HPで公開していくので参照していただきたい。

免震建物普及促進委員会

委員長 早部 安弘



新設計法検討部会

委員長 早部 安弘

2025年3月5日に第15回部会、4月24日に第16回部会を開催した。前回に続き、簡易設計の適用範囲を定める議論を深めている。今までの解析結果から応答の大きい上位10波を選定し、基準面圧、ばらつきを考慮した応答解析を再度、行った。そのようなプロセスを経て、概ね適用範囲の絞り込みに近づきつつある。それと共に本設計法を適用した場合の建設地の地盤種別、上部構造の応答状態についても議論を重ねている。3年目の今年度中に新設計法としてまとめるべく、メンバー一同で鋭意活動している。

普及促進部会

委員長 藤田 啓史



毎月部会を開催し、継続して普及に向けた打合せを行ってきました。

委員からの意見が多かったのが、「SNSを活用した情報発信」であり、24年6月にJSSI YouTubeチャンネルを開設しました。また、10月からX（旧Twitter）を始めました。YouTubeチャンネルは25年5月現在で22本の動画を公開しています。その他、免震建物計画・設計相談会を始めたり、意匠設計者向けの勉強会を提案したりしました。

本部会は25年5月で終了します。蓄積した普及のためのアイデアは、普及委員会の教育普及部会に、SNSの運営は情報発信部会にそれぞれ引き継ぐことが決まりました。

これまで普及促進部会の活動にご協力いただいた委員の皆様、YouTube、Xに登録していただいた皆様ありがとうございます。引き続き、免震建物の普及にご意見やご協力をいただけると幸いです。